

第41回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	拓植ゼミⅡ	チーム名	甲南水
タイトル	善意の集め方		
テーマ群	c)公共経済		
メンバー	河野裕輝、濱慎太郎、小野諒佑		
研究計画内容	<p>いま、世界的な人口の増加および環境問題により、水不足が大きな問題となっている。</p> <p>私たちがこの問題に向き合うに至った理由は、次の文章である。「地球人口の約40%である26億人が衛生的に問題のない生活用水の確保ができていない。さらに、約9億人ものが安全な飲料水にアクセスできない。」このような事実に対し、私たちはいったい何ができるのかといった疑問を持ち、研究を始めた。</p> <p>研究を進めていくうちに、みんなが持っているであろう善意を、どうにかして力に変えることができないかを考えた。</p> <p>ひとつは募金である。募金により、今まで多くの問題が解決してきた。これからも活躍の場はあるだろう。しかし、ただ単に募金を集めるだけでは、そこまで多くの金額はなかなか集まらない。</p> <p>つぎに目をつけたのがコース・マーケティングである。現在、企業はただ単に利益を得るだけではなく、社会的責任を果たすという義務を負う時代になった。これにより、各々の企業が各々の方法で社会に貢献している。私たちは、これを上手に利用できないものかを考えた。</p> <p>また、コンビニや街頭などでよく募金箱は見られるが、ハートフルベンダー（自動販売機での募金）という、より簡単で身近な募金方法が考案されている。</p> <p>このような内容を踏まえ、実際に人々の意思と照らし合わせるため、アンケートを用いて調査を行う。このアンケートでは、CVM（仮想評価法）を使用し、単純な募金とハートフルベンダーのような仕組みとで、どのような意思の違いが生まれるのかを測定する。</p> <p>以上の研究を通じ、世界的な水不足解決の糸口を発見することを目指す。</p>		